

地域まちづくり推進のあり方検討と評価書・見解書を踏まえた施策の推進への意見

1 概要

第36回地域まちづくり推進委員会（平成28年6月）及び第38回推進委員会（平成29年3月）の議題として、委員より多数の意見をいただいた。

2 主な意見

(1) アプローチ型支援について

ア 地域へのアプローチの仕方について

- ・庄戸の事例（公募で人材を発掘）は非常に面白い事例。自治会は絆が強すぎて人が入っていくにくいので、庄戸のようなミッションに対して担い手を見つけることがいろいろと活用できると面白い。
- ・アプローチをする際に、テーマを特定のものに絞れば、既存の自治会では無理であっても、反応してくる人がいるかもしれない。
- ・まずはやってみることは重要だと思うが、アプローチの入り方や地域の動きの推測を論理的に考えたうえでやってみることが必要だと思う。
- ・アプローチをする際には、「こんなことができますよ」といったハードのリストを行政で用意しておく必要があるのでは。

イ アプローチ型支援の体制について

- ・健康福祉局がかかわっているのは非常に心強い。現在ローラーで地域に入れる部局は健康福祉局くらいなので、アプローチをするにあたって地域のセンサー的な役割を担ってほしい。
- ・健康福祉局のアプローチ、市民局のアプローチ、まちづくりのアプローチは視点が違うと思うので、意見交換をしながら進めていくことで進んでいくのではないかと思う。

ウ 支援のイメージ図について

- ・B（アプローチ型）とC（行政テコ入れ型）の分類に関しては、明確な基準がないと地区に入っていくことはできないのではないかと。優先順位の高い指標を選ぶべき。
- ・B地区は準C地区として、行政が税金を使ってテコ入れしていかなければいけない地区という認識が必要。しかし行政効果を高めるために、市民のコミュニティ意識や協働という視点がないとできない時代になっているという考えと持っている。
- ・B2は限りなくCに近い予備軍で、地区の課題は比較的共有をされていて、「こういう課題がありそうだからどうですか」という提案型で動く。B1は課題としては明確にはなっていないけど、地域づくり大学校などでまちづくりをやりたい人がいる地域、と整理できるのではないかと。

(2) 「小さなハードのレシピ集」について

- ・「小さなハードのレシピ集」を出すことはまちづくりを啓発するのに非常に重要であると思うが、「こういうケースがありました」だけではなく「こういう問題があったが、こういうポイントをクリアしてうまくいった」という形で作成してほしい。
- ・「小さなハードのレシピ集」には期待している。都市整備局のことだけをまとめるのではなく、今後は福祉関係や環境や経済などとの新しい連携ができないか見直してほしい。

(3) その他

ア まちづくり活動団体への支援について

- ・「地域まちづくり団体への自立的な活動に向けた支援」の中の、ネットワークを作って団体へのノウハウの共有とあるが、現状はネットワークが世の中にあふれている状態なので、今ある組織や団体と連携していくほうがいいのではないかと。
- ・ハードを運営するのに苦労している団体が多いので、資金だけでなくアイデアやノウハウなど、コーディネーター支援が求められていく。
- ・人的な資源は地域にあるけれども、うまくつながっていないような気がするので、そこをつなげる仕組みができるといいと感じている。

イ まちづくりの連携について

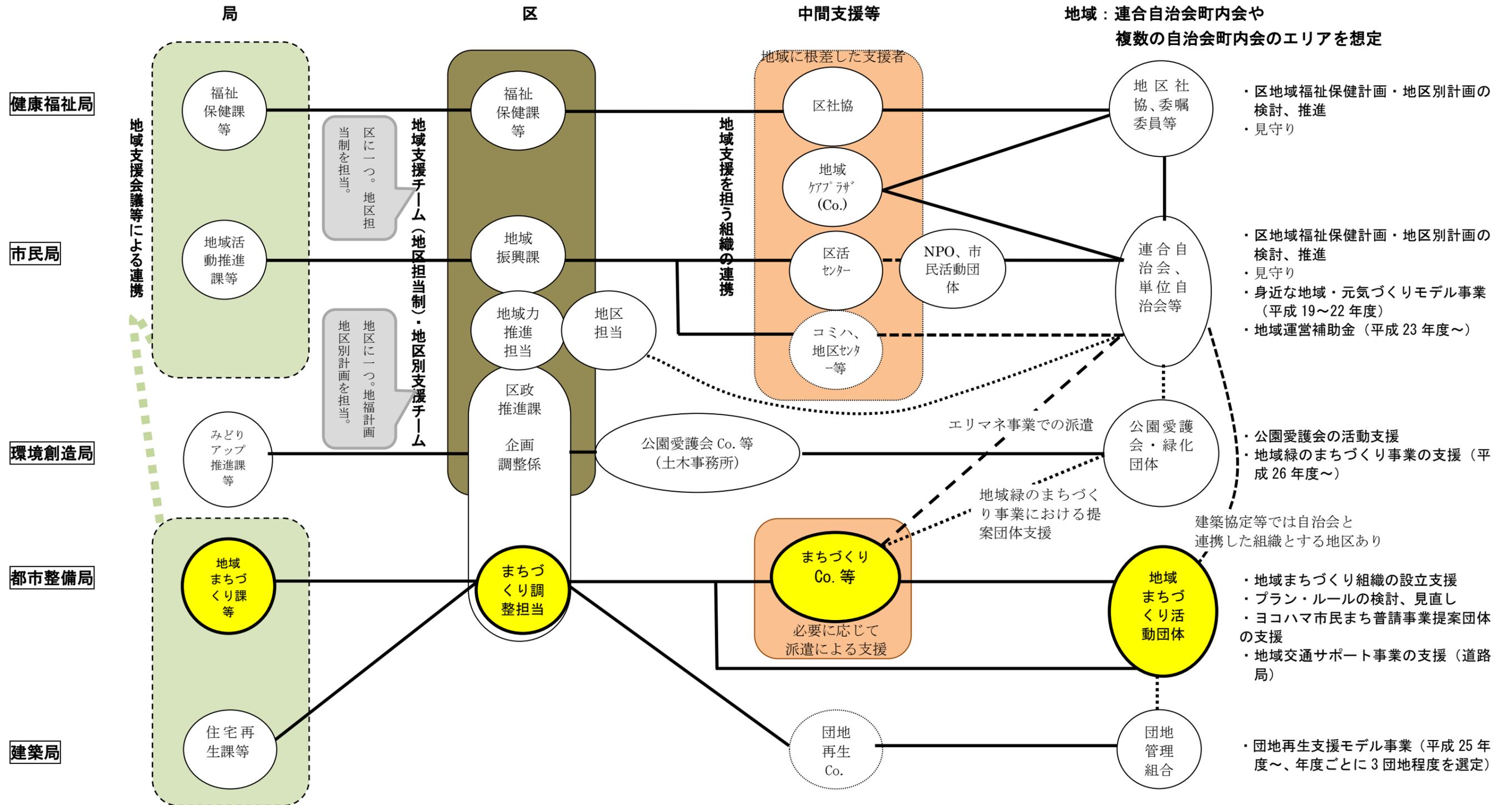
- ・居場所ができることでコミュニティや自助・共助の取組などつながりができるのでハード整備はとても重要であるが、そこから更に福祉の視点が重要。
- ・いまや都市整備局だけでできるまちづくりは終わったと思わなければいけない。都市整備局ができることを中心に推進していくのは当たり前で、むしろ連携を重点的にやっていくことが重要ではないかと。

ウ その他

- ・まち普請などの制度はまだまだ市民には知られていないと思うので、今後も情報発信をしてほしい。
- ・ハードは重要だが、ハードを使いこなすソフトが重要で、それを支える仕組みが必要。そうでないとハードを作っただけで終わってしまう。
- ・地域の自治会で担い手が不足している問題がある中で、「地域の担い手の受け皿を探していく」といういい方には矛盾を感じる。
- ・アプローチする地区は今の状況をどんどんほっておくと、急速に高齢化が進んでいくなど、5～10年後に深刻になっていく地区と理解している。限られた予算等を集中しなければいけない行政の状況を考えると、そのような地区に集中的に支援することは必要と思う。

■ 地域支援体制の現状のイメージ ■

(参考2)
平成26年「地域まちづくり推進のあり方検討」資料

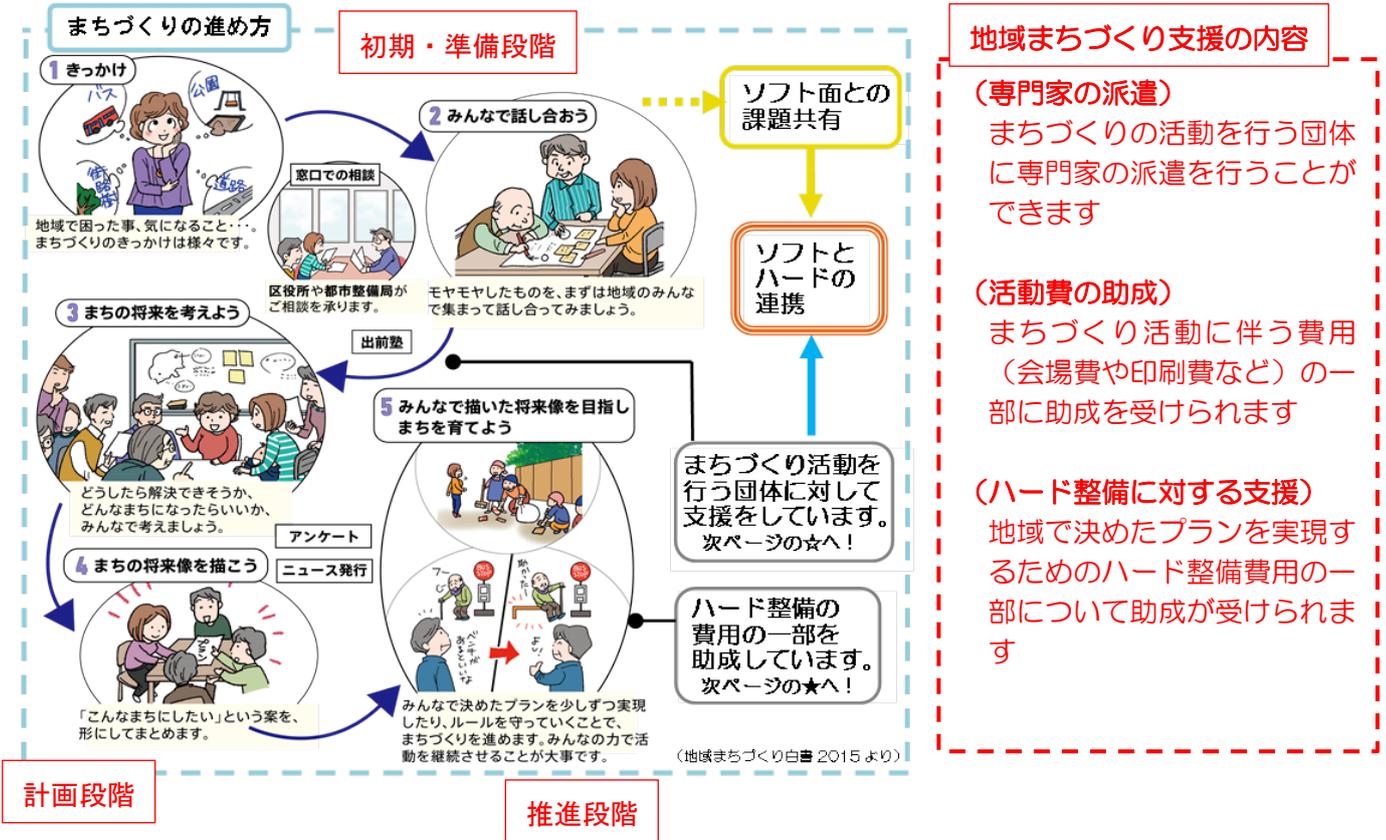


図に収めるために、便宜的に一部略語を用いています。
 地福計画：地域福祉保健計画
 Co.：コーディネーター
 コミハ：コミュニティハウス(身近な生涯学習や地域活動の場)

※ この図式は、都市整備局地域まちづくり課が現状についてイメージしている資料です。地域支援チームの状況など、具体的には区によって異なります。

(参考) 地域まちづくり支援制度について

地域まちづくり課では、まちづくりを進める中で様々な支援を行っています。



地域まちづくり支援制度についての出張説明について

上記の支援制度の概要や、制度を活用した具体事例について、直接地域ケアプラザにお伺いして説明をいたします。

詳細な制度説明の希望がございましたら下記の連絡先にご連絡ください。

横浜市都市整備局地域まちづくり課 松岡、石土
電話番号 045-671-2939

アプローチ型支援推進地区の情報提供のお願い

- ・まちづくりの専門家の派遣により地域の課題について勉強会を行いたい地区
- ・ソフトの課題をハード整備を行うことで解決に向かいそうな地域

そのようにアプローチ支援が進められるのではないかと地域がもしございましたら5月31日までに下記にご連絡いただけますでしょうか?

瀬谷区区政推進課 藤澤、服部、葛野
電話番号 045-367-5632